

第12号
昭和36年1月1日
隔月発行
発行所
福岡県田川郡方城町
松尾 勲
印刷所
冷牟田印刷合資会社



第二回分館長会議開かる

年々始に於ける好ましからぬ風潮を是正し、積極的に新しい年末年始のあり方を考えるため創意工夫を呼びかけ、特に年末の反省と新しい年の計画についての話し合いを各家庭や職場や地域に於て実施推進するため、十一月十一日午後一時より青年婦人研修所に於いて分館長会議が開かれました。

③国旗掲揚
樹て新しい年の出発を誓う。
④門松について
日本の象徴である国旗を祝日に掲げよう。
⑤注連飾
高価なものを使わず略式簡素なものとする。
⑥年賀状
家計簿の記帳により生活を合理化し明るく楽しい家庭を建設しよう。

新生活運動に御協力を御願ひします

日當疎遠のもの或は関係の深いものとし、町内或は思いつき等は遠慮すること。
③正月接待
正月の廻礼、宴会等は合理的にし自粛を旨とする。
④新年の贈答
虚礼にわたらぬよう自粛しましょう。

年頭の御挨拶

あけまして御芽出度うございます
石炭産業依存から脱却し、方城町将来の経済確立に全力を尽したい



町長 倉石 文夫
昭和三十六年の輝かしい新春を迎えるにあたり、町民の皆様御多幸を心からお祝い申し上げます。
省みますと昨年は三菱方城製鉄所の企業整備問題による多数の人員整理や企業縮小が行われ、又未曾有の干害に見舞われ、大被害を蒙り、飯米さえ事欠く御家庭もあり、非常に御同情にたえないものがあり、誠に多難な年でありました。

方城町重要施策の一端を担う植林事業を顧みて

昭和三十一年度伊方地区の水源地保護林の植栽を振り出しに三十四年度までの五カ年間に約五百町歩に近い大面積の植樹が完成された。植林の区別には水源涵養林、県行造林、官有造林と分類され、共にも官有造林は三十一年度から問題の解決に全力を注いで成果を期しています。

その都度悲壮な決断とたゆまぬ努力のたまひであります。私達は斯うした作業は六月下旬から八月末までに地帯作業のかわり下刈作業も並行して完全に実行したお蔭で、五カ年間の造林に対する総費守りぬくことはありまじやうか。それを投じて事業が行われて来たので

林務課長 原 田 実



畑村社赤坂八幡社 三百年祭催さる

八幡町赤坂神社が畑地秋分原に分神として建立され三百年の開地元民の守り神として今日迄つやまい親しまれ、今日三百年祭が盛大に催され、町長をはじめ多数の参拝者を得、おそかに儀式を閉じ、正午からは郷土音楽隊がなかながら舞われ、クライマックスに達する時は参観者も白人近くに増え、終始目を見張った。

写真は赤坂八幡社
思う。
ぶらりとしては
暮されもせず
諧謔的な言ひまわしの中に、歯をたえもあり、滋養もたまりありそこに思ふ。
(教育委員会 永末)

筆にまかせて

教育長 永末 勇 常

門松や冥土の旅の一里塚、大悟徹底することは知らぬが、然し大悟徹底した人の日々の生活はどんなにか安らかなものであろうかと思ふ時、吾人も大悟徹底への道を辿りたいものだと思ふ。我々の将来は過去の石炭産業の依存から脱却し、将来の我々の生活向上と経済発展を確立するため、干害被害をなくし、地の理に立脚せる石炭産業と関連する化学工業等の誘致をはかり、その必須条件である工業用水の獲得と水田開発を夢見つゝ、尚且つ伊方ダム建設を夢見つゝ、苗木の生長を望みます。

次は今一つ何をかかしても一番大切なことは山火事の防止です。これ程恐ろしいことはありません。植付後十カ年間せん。

当局としては山林火災警防設置をして防火に絶えず注視してはいますが、更に町民の皆様御協力を御願ひして多くの人の監視の眼を光らしていただければ、防火によりよき効果を挙げ得るものと思ひます。私達の山を私達の手に守りぬくことはありまじやうか。それを投じて事業が行われて来たので



公民時報十一月分十二号は十一号の誤り故訂正します。



原田 実氏

春 頌

- | | | |
|--------|----------|----------|
| 方城町役場 | 町長 | 倉石 文夫 |
| 収入役 | 石谷 時次郎 | |
| 方城町議会 | 議長 | 立花 富雄 |
| 副議長 | 中山 敏亮 | |
| 外議員一同 | 方城町教育委員会 | 委員長 田上 進 |
| 教育長 | 永末 勇 常 | |
| 外職員一同 | 方城町公民館 | 館長 倉石 文夫 |
| 運営審議委員 | 山本 保 | |
| 田中 左 | 太田 秀雄 | |
| 立花 富雄 | 加藤 頼明 | |
| 高崎 大正 | 倉石 清治 | |
| 仲村 治一郎 | 本藤 岩夫 | |
| 松村 常千代 | 渡永 信吉 | |
| 富田 武元 | 黒田 貞利 | |
| 岡本 政市 | 香月 貞子 | |
| 宮崎 ヒサ子 | 中山 市太郎 | |
| 仲村 春夫 | 永末 春夫 | |

相携えて防犯の完璧を

田川警察署長 姫野照夫



謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年中に皆様方が防犯協会の組織を基盤として、自主的なしかも積極的な防犯活動を実施していただきましたことをあつく御礼申し上げます。

昨年中の犯罪発生状況をながめてみると、凶悪犯、粗暴犯、盗犯等は一昨年より約四〇パーセント減少しておりますが、けち銃等による殺傷事件が発生しております。御挨拶と致します。

ことは遺憾に存じます。数的には減少を示しておりますものの客観的状況は昨年同様悪化しており、犯罪発生が増加が予想されます。よの自主的に、しかも積極的

に相俟てて防犯の完壁をきし、私たちの理想とする明るい社会の建設のために御協力下さいますようお願いいたします。

青少年に刃物を
持たせないで下さい
全国でも殺人事件の多い田川

皆様方にあぶない刃物がありま
せんか。
はい、うち、飛出ナイフ、登山用
ナイフは人の命をうばうおそろし
い刃物です。
先日田川市内のダンスホール内
における殺人事件も凶器は登山用
ナイフでしかも犯人は十七、八オ
の少年でありました。又最近中学
生や高校生の間にも飛出ナイフや
登山用ナイフを持つことが流行し
て、これを持ってお互にけんかを
して傷を負わせている事件も多く
なつて来ました。
このような刃物のためにお互の
子供が被害にかゝらないように、
又他の人に被害をかけるように
防するため、このたび
「青少年に刃物を持たせない運
動」が全国的に行われておるま
ので、この趣旨に御賛同下さい
して、皆様方の子供さんはこん
刃物は持つてはいないか、持つ
ていたら警察に差出すなどの処置
して、又こんな刃物を欲しが
る時でもあぶないから止める
う言いきかせて皆様方の子供さ
達にあぶない刃物を持たせない
う特に御協力の程をお願い致し
ます。
昭和三十五年十一月
田川警察署

青年団ソフトボール大会に際して

方城青年團長 黒田貞利

去る十二月十一日町青年団ソフトボール大会が開催され、井城地区四、伊万地区四計八チームの間に熱戦が展開され、終始なごやかな間に大会を終る事が出来た。本大会の目的は、日常の単調な生活にうるおいをもたせ健全にして豊かな生活を営む社会体育の一環として列年行っている一般青年団員相互の今後の青年期する大きな目的がある。今大会がこの意味で非常な成果を上げ得た事は団員各自の自覚によるものであり、今後の活動に非常な期待が持たれる。

今後共いつその努力を望んでやみません。

試合結果

優勝 野添チーム
二位 新町チーム
三位 畑チーム

優勝 野添チーム
6
2
25
10
14
0
8
16
14
23
9
20
中古門
上井城
迫
野添
新門
西古門
畑
久六

			優勝	野添	チー	ム
			6		2	
			25			
20	14	0	8	16	14	
中古門	上弁城	迫	野添	新門	西古門	

冬の夜話

山東匪賊譚
アルピーレン
匪首 二皮臉の巻

第一 発端
先日行われた総選挙の際此の四区の某候補応援の為政界の立役者 K 氏が伊田直前 風治神社の境内横へ、街頭演説をして居るのを通りがかりに聞いたが、演説が終つて、此の一行が自動車を進ねて、出発しようとする時、此の一行の中に M 君が、K 氏に随行して来ているのにパツタンと出會つた。君は福岡市出身、早大出の柔道部の猛者で、戦地では、私より三期後輩だったが、非常にウマが合つて、軍の情報連絡会議が、濟南であつた時は、何時も、彼と兵站旅團や日本人科擧で、痛飲したものだ。此の H 君が今から語る二皮險罪の顧問的地位に就いたのが、昭和十七年で、私が初めて、二皮險罪と広聴してから、約一年半程後である。二皮險罪のことを語ろうとしている時、偶然に H 君と出會つたのは、これも何かの巡り合わせではないだろうか、運命の糸は戦争が濟んで、十数年後にまでも、すすんで来ているところ偶然とは言へ、不思議だ。

昭和十四年十二月一日附で、私知らなかつたことが、私が部長就任後初めて解つた。

正規の陸軍特務機關と言つものは、軍作戦遂行に必要な資料を集めたり、之を測面的に援助する一切の仕事を受持つてゐる。映画や小説に描かれてある様な謀略、暗殺、破壊などはかりやるものと考へられては大きな間違ひだ。当時軍では占領地区の各道、県へ一名宛機關員を駐在させ、その道、県の行政及び軍警の指導に當らせていた。

幾回員は日本軍警備隊と一緒に、

成人の日を迎える方へ

一月十五日は成人の日であります。これは昭和二十三年に法律によって定められたものでないであつたが、常に社会人としての自覚と青年の誇りよ若さをよく御勧めします。

犬星防犯対策協議会開催さる

分館長 森

大星公民館には十二月二十日よりの発足する交通法規に關係する共闘会を開き終了後、方口関係寺の聞

2 毎日午後十時の翌日午前五

3 各隣組よりの毎日二人就警

4 夜警人は腕章をつけること

昭和三十六年を迎えて

方城町公民館 松尾 勲

女が新しく成人式を迎えられますが、何時の時代でも若い力は国家社会の原動力であり、今年成人になった方にも良い理想と真の勇氣をもって社会を前進せしめてもらいたいものです。

樹立されました。

策が協議されました。

特に犯人取扱については自己防衛に注意するよう山口部長より詳細な説明があり、左記の防犯対策が

防犯委員として選出された防犯

二十歳と云う年齢は体力、精神共一

十二月二十六日より三十一日

方城町公民館 松尾 勲

一九六一年の新春を迎えるにあたり町民皆さんの御健康を祝し御多幸を祈つてやみません。

旧年中には皆さんの御理解と御協力により公民館諸行事を無事行い初

期の目的を達し、文化の向上、社会福祉の増進に微力ながら寄与し得たことをお慶び申します。

御承知のように社会教育団体に対しては本館は各団体の求めに応じ

年頭の御挨拶

方城町議会第三部委員長

高
津
清
治



炭産業がエネルギー革命とも云つべき産業構造の改変に遇い、三菱方城礦業所の坑命の短縮、企業整備により、六百余名に達する多数の転町者や離職者を生み、失業者と生活保護家庭の増加が急上昇の一途を迎へる状態となり、町財政を根幹から揺るがす地方自治体の将来は誠に深刻な事態に立ち到つたのであります。

新しい年と共に私どもは真剣

根本的には産業の振興と雇傭の増大であり農業技術の改善、農業の圃期的な改良を主体として工業用水の確保による工場誘致の実現を図らなければなりません。

土壌改良により密植栽培の研究、畜産、酪農の推進のためにも懸案の弁城、伊方ダムの建設の実現を期し、将来の工業発展の基盤を速かに確立せねばなりません。

一九六一年を迎えるに際して社会教育に望む

方城町議会議長 立花 富雄



年の幸先きも約束されたように誠
に御同慶至極に存する次第であり
ます。 惜て公民館が誕生して以来
公民各位の認識が大いに深まり趣
旨も徹底普及されてまいった事は
各位の活発なる行動の跡が顕著で
あることは誠に喜ばしい事であり
ます。

申す迄もなく本館は公民教育の必
要が今日程叫ばれている時代はあ
ることは頗る冷淡でありまして現
下の政治、産業、経済等の認識は
一部の人を除いては遅れ勝ちの上
うに又公民教育と言う問題は自治
体自身にとって大きな宿題の一つ
のように囂繁されます。

茲に於て各位の実行されておきま
す公民の活動と教育は機能を最大
限に發揮する爲に各公民館毎にい

(た) (ば) (こ) (の) (話)

一本のたばこのけむりが
皆さんの
子供を育てゝいます
町内で売れたたばこの百分の十二は方城町の収入となり学校、道路等の事業の大きな財源になっています。
町民皆さんの御協力を御願します。

